

こども版



すなあらいの作ぎよう

安良沢じょう水場見学記 野口小三年のみなさん

(安良沢じょう水場と市役所を見学した野口小学校三年のみなさんから、おたよりがときました。いつももあつたので、ここで答えたいします。先生のお手紙には、見学してから、社会科のすきな子がふえたと書かれていました。自分の住んでいるまちのことを、どんどん勉強してください。へん集ふ)

安良沢浄水場の おじさんへ

三年 菊地 秀和

きのうは、どうもありがとうございました。

ぼくは、安良沢浄水場が昭和二十九年四月にできたことがわかりました。

水は七里まで行き、水のりよう

は、一万二千立方メートルの水の半分が、うらみのたきからきていて、あとの半分が山からふき出る水ということがわかりました。それから「しぜんりゆうか」ということがわかりました。八千つぼ、二万六千四百平方メートルある。ちんでん池という池がある。そのふかさは四層もあり、池の中には魚がいる。なぜかというとうと、魚が死ぬとわるい水が入ってきた

ことがわかるからだ。ということが、おじさんのせつめいでよくわかりました。

おわりのほうに、すなのある池がある。すなは一層もある。そのすなは、いばらき海がんのすなだということがわかりました。

あと、すごろくとえんぴつどうもありがとうございました。いつもんします。

どうして水は七里までしかいかないんですか。おしえてください。「七里、野口、和泉地区の水道は、七里に「七里じょう水場があり、ポンプで地下水をくみ上げているために、安良沢じょう水場からの水は使いません」

安良沢浄水場の おじさんへ

三年 石嶋 善典

ポスターとえんぴつありがとうございます。ございました。

浄水場のおじさんたちは、山からくる水とか川からくる水を、ぼくたちののめるまでにしてくれます。水をよぼうしたり、水をためたりしてくれたりします。ほんとうにたいへんな仕事だと思えました。

水がなくては生きられないから大切な水を守っていききたいと思えます。ぼくも浄水場見学をして、水の大切なことがよくわかりました。

きれいな川や湖も、今は大変よ

ごれています。ぼくたちの日光市をきれいなところにしていききたいと思えます。しぜんりゆうつくしいぼくらの町も、水がきれいでなければいけないと思えます。ぼくらの町は、ぼくらがきれいにして守りたいと思えます。

安良沢浄水場の おじさんへ

三年 湯沢 浩二

このあいだは、どうもありがとうございます。このあいだしつもんしなかったので、しつもんします。

どうして、一人一日に三百三十三リットルのむということがわかるのですか。

(一人一日に三百三十三リットルのむのではなく、おふるや、水せんべん所、せんたくななどをふくめて、一人が使う水の平きんが三百三十三リットルになります。のみ水だけでなく、生活するうえで使う水もふくめた統計(とうけい)での数字なのです。)

なぜ二万六千四百平方メートルも広いところがひつようなのですか。

(沈殿池(ちんでんち)や汙過池(ろかち)、その他のざいりょうをおいたりする場所がひつようなためです。とくに汙過池はよごれりとすなあらいをして、水のおおりをよくするために、いくつもの



安良沢じょう水場

汙過池がひつようなためです。どうして沈殿池は四層もふかいのですか。

(「下口や木の葉などをしずめて、水をきれいにするために、ふかい池がひつようなのです。)

どうして七里までしかいかないのですか。

(「菊地君のしつもんと同じお答えです。)

どうして日光の水はおいしいのですか。東京や宇都宮の水は、く